

【各学年のグランドデザイン】

第 2 学年

何ができるようになるか
○各教科等で育成する資質・能力

【学びに向かう人間性】対人やグループワークでの課題解決のため、意見をまとめ集団に働きかける力
【思考力・判断力・表現力】課題解決のため必要な情報を集め、分析、選択し、考えを資料としてまとめ、他者に説明、発表することができる力
【知識・技能】進んであいさつ、返事をし、適切な行動や言葉遣いを行うことができる力

何が身に付いたか
○各教科等の学習評価

【学びに向かう人間性】対人関係やグループワークなどで、他者や集団に働きかけることができる
【思考力・判断力・表現力】課題解決のため必要な情報を収集、取捨選択し、資料を使い、他者に説明、発表することができる
【知識・技能】進んであいさつ、返事をし、適切な言動をとることができる

子供たちの実態

- ・落ち着いた態度で学習・生活に取り組む生徒が多い。
- ・積極的に異質な他者に関わる意識が低い。
- ・他者と協働して課題解決に取り組むのが苦手。

子供たちの発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子供への指導

- ・手帳やメモ帳の活用。
- ・個別面接であいさつ、返事の方法を支援。
- ・ポートフォリオの活用。

目指す子供たちの姿

- ・自分とは異質な他者とも適切に関わることができる生徒。
- ・話し合いや協働的な作業において、主体的に他者や集団に働きかけることができる生徒。

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- ・学校設定科目を活用し、本学年で育成したい資質・能力を明確に生徒に示した上で授業や体験を行った後、自己評価や作文を課すことでの振り返りを通して、自分に付いた力を気づかせることで、自己肯定感を育成する。（シン発見・インターンシップなど）

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- ・授業やセミナーを通して、面接の方法や職場での適切な言動を学び、それを活用し就業体験を実践することで、付いた力を気づきとして振り返らせる（インターンシップ）
- ・学科を横断したグループを編成し、課題の設定やその解決に向けての調査や資料の作成を協働で行い、それに基づき発表する（シン発見）

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

地域の民間企業や地方公共団体の各事業所と幅広く連携し、就業体験を通して、実践的な学びを行う。・課題解決型の学習に、ICT 機器を活用するため、校内の情報ネットワークを充実させ、タブレット端末（Surface・iPad など）を導入し、ハード面の強化を図る。

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

修学旅行の事前学習およびその一環としてのグループワーク、プレゼンテーションのための資料作成では、旅行で訪れる土地を、人文科学的に、あるいは自然科学的になど多様な視点から探求し、あらゆる教科、科目の思考力や表現力を駆使することで、それらを広く身につけさせる機会とする。